

# ミサゴ便り

平成 24 年 1 月 10 日発行

弓削野鳥の会編集発行

新年明けましておめでとうございます。

今年 1 年が皆様にとって、良い年になりますようお祈りいたします。

## 石鎚ふれあいの里でカワガラスに遭遇



昨年、11月27日（日）以前より計画していましたが、愛媛県西条市の石鎚ふれあいの里へ遠征に出かけました。何を隠そうここには日本野鳥の会愛媛の

代表でもある山本貴仁氏が経営に携われており、霊峰石鎚山をバックに自然観察にはもってこいの観察フィールド、スポットで、山本氏の熟知した指導を受けることもできます。会員5名は朝早く車に分乗し、一路西条市の山奥めがけ出発しました。約2時間で到着し、早速、山本氏の指導の下、付近を散策、山本氏の情報のとおり、加

茂川溪流にカワガラスを発見、カワガラスが川面をすいすいと泳ぎながら潜水し、浅い水際を歩きながら水生昆虫を捕っていました。



カワガラスは気泡がついて体は銀色に美しく光って見えました。潜水するためにその尾の基部にある脂肪腺は特に大きく発達している

そうです。カワガラスの繁殖期は早く2月から始まります。滝の裏側の岩のクボミなどにこけで球形の大きな巣を作ります。潜水し餌を採取する姿を見るのは、会員も初めてのことでみんな大変喜んでいました。石鎚ふれあいの里では、学校跡地を利用して野草観察会、おさかな観察会、昆虫観察、こんにゃく作り、ちくわ作り、草木染め教室等、四季折々の多彩な体験教室が開かれています。当日も南予の方からたくさんの方が視察研修に来られていました。宿泊施設もあり、長期滞在もできるようになっています。みなさんも是非機会があれば参加してみてもはどうでしょうか。(※詳しくは石鎚ふれあいの里 HP を御覧下さい。)

「川鴉鳴きすぎゆきぬたぎつ瀬のたぎち輝き流るる上を」 牧水

(参加者：松本敏和、平山久子、松本純一、岡村美恵子、村上尚)

※「カワガラスは水鳥のような水かきのある足を持たず、アヒルのような豊かな脂腺も持っていません。水底の岩をつかんで身を支えるのに役立つ細長くてとても鋭いつめ、水をはじき落とすツルツル

した外側の羽毛、  
する内側の濃い  
らはいずれも、人  
めに考案してい



そして寒気を絶縁  
羽毛だけ・・・これ  
間が水中作業のた  
る道具の類に遠く

及びません。しかし、この潜水鳥がもつ最も価値のある道具は、その脳細胞にたくわえられている知識にほかなりません。流水、うず、さざ波、静水の利用法を十分に心得ています。」

### 野鳥観察教室・・・魚島小中学校

平成23年度愛鳥指定校として指定された魚島小中学校（校長：長



島章子) 主催の野鳥観察会に指導者として、弓削野鳥の会が招聘されました。5月16日のまさに愛鳥週間の最後の日で開催され、児童生徒9名の小規模校ではあ

りますが、熱心に松本会長、平山副会長の話しに聞き入っていました。当日は、暑さと時間帯のせいもあり、たくさんの野鳥を見ることはできませんでしたが、小中学校周辺の篠塚公園、石鎚山、亀居

八幡神社等を散策しながら、ハシブトカラス、ハシボソカラスの見分け方、トビの見分け方、ツバメの見分け方等、特にカラスの見分け



方については、鳴き声、嘴の特徴等に驚いていました。魚島で野鳥観察会を開催するのは今回初めてのことで、2時間ほどの短い時間でしたが、子供たちは最後まで熱心に指導を受けていました。最後にみんなで「鳥合わせ」をし、イソヒヨドリ、コゲラ、ウグイス、ハクセキレイ等、約16種類の野鳥を観察することができました。また、機会があれば魚島の子供たちに会いに行きたいと思います。

(参加者：松本敏和、平山和昭、松本純一、松本真理子、村上尚)

平成 24 年度 公益信託サントリー世界愛鳥基金「地域愛鳥活動助成部門」で助成金「20 万円」をいただくこととなりました。町外遠征、交流活動、野鳥分布調査、清掃活動等に使用したいと思います。

皆様のご協力のほどよろしく申し上げます。

## 【おもしろい動物学】

### 子育ては雄まかせ（タツノオトシゴ）



海中の動物たちは、いろいろな珍しいところに子を収容する巣を造ります。一番あぶなっかしいのはタツノオトシゴの雌がしつらえる巣で、それは雄の腹にある袋なのです。雌はその中に卵を産みつけたあと、大急ぎで逃げ去って、子のおもりを雄にまかせきりにします。オスの腹の中身が成長するにつれて膨らんでいきます。孵化の 때가くると、雄は腹の袋を押し開いていきみ、子供らをまるで微小な子馬の行列のように次々と噴出させます。

### おしめをそなえた鳥のヒナ

鳴鳥のヒナは体内の老廃物を排泄囊という薄い幕の袋に入れて始末します。ヒナの排泄物は身体から出てこの袋に入ります。袋はヒナが餌をもらおうとすぐに現れます。ヒナはシリを巣のふちに向けて親鳥にその整理袋を差し出します。親はそれを巣から離れたところまで運んで捨てます。

### 聴覚で獲物をとるフクロウ

フクロウの両耳の位置の非対称性にも似た不一致のために、右の耳に聞こえる音は極度に速く減衰します。他方左の耳では極度に遅く減衰するかないし増幅されることとなります。フクロウが両方の耳に聞こえる音の強さを釣りあわせようとすると、頭の正しくない方向づけによる食い違いは増大します。ところが、すべての周波数が両方の耳に最大の強さで聞こえるよう頭を方向付けると、頭は自動的に音源の方にまっすぐ向くこととなります。フクロウは頭を回し、さらに身体全体を完全に回すことによって音のバランスを達成し、獲物に正対します。それから、飛び立って獲物に接近し、頭を後ろに傾けます。自分の足を音の方向と一線にしたフクロウは、獲物を見事にしとめます。その正確

さはほとんど百発百中・・・角度にして一度以内の誤差に過ぎません。

(おもしろい動物学 ー 巧妙な習性を探る ー ジーン・ジョージ著から)